



YASKAWA



株主のみなさまへ

第91期 中間ご報告

平成18年3月21日 ▶ 平成18年9月20日

機械と人間の共生へ—Quality & Beauty

株式会社 安川電機

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第91期中間期(平成18年3月21日から平成18年9月20日まで)における当社および子会社、関連会社を含む当グループの業績について、概要をご報告申し上げます。

当中間期における世界経済は、原油や原材料の価格上昇による影響が懸念されましたが、欧米およびアジアでは概ね堅調に推移し、国内においても設備投資の拡大や雇用状況の改善等により、景気回復傾向が持続しました。

このような経済環境を捉え、当グループでは今年度から3か年の中期経営計画“ダッシュ100”をスタートさせ、攻めの経営を展開しております。“ダッシュ100”では、シェア・事業規模・収益性における真のグローバルNo.1事業の確立、新規事業の立ち上げ・育成、売上高経常利益率10%の早期実現の3つを基本方針としており、特に当中間期は、既存事業の強化および事業領域拡大を図るべく、注力市場である自動車市場、半導体・液晶市場等での深耕と開拓、中国を中心とした成長市場であるアジア市場、欧米市場への拡販等に取り組んでまいりました。

また、半導体ウェハ搬送ロボット事業の再強化を図るため、ブルックスオートメーション社(米国)と提携し、合併会社安川ブルックスオートメーション株式会社を設立するとともに、当社米国子会社シナティクスソリューションズ株式会社をブルックスオートメーション社に譲渡いたしました。

この結果、連結業績につきましては、売上高は前年同期比23.0%増の1,797億32百万円、営業利益は前年同期比85.0%増の151億1百万円、経常利益は前年同期比

85.2%増の151億66百万円、中間純利益は前年同期比3.2倍の87億22百万円と、大きく収益を拡大し、いずれも中間期としては過去最高を記録いたしました。

なお、当社個別業績につきましても、売上高は前年同期比17.9%増の1,037億29百万円、営業利益は前年同期比2.8倍の47億16百万円、経常利益は前年同期比2.0倍の83億16百万円、中間純利益は、前年同期比56億63百万円増の62億3百万円と、いずれも中間期としては過去最高を記録いたしました。

配当につきましては、以上のような業績をふまえ、今期から導入いたしました中間配当制度に基づき、1株につき中間配当3円とさせていただきます。

今後の見通しにつきましては、国際情勢の変化が世界経済に与える影響や、原材料価格の上昇、原油価格の動向や金利上昇、米国経済の減速等のリスクが懸念されます。

このような状況の中で、当グループといたしましては、市場の変化を的確に把握し、景気変動リスクに留意しつつ、中期経営計画“ダッシュ100”で掲げた目標の早期実現に向けて、基本方針・重点方針に沿った諸施策を実施してまいります。

具体的には、当上期に引続き、既存事業の強化および事業領域拡大のため、自動車市場、半導体・液晶市場、アジア市場、欧米市場への拡販および新製品の開発・市場投入を加速してまいります。また、合併会社である安川ブルックスオートメーション株式会社は当下期から営業を開始し、競争力のある半導体ウェハ搬送ロボット製品等の販売・サービス事業の一層の強化を図ってまいります。

YASKAWA

一方、ブランド価値の源泉・基盤となる製品および業務の品質に対し、全社を挙げて徹底的追求を行い、更なるレベルアップを図ってまいります。新規事業の育成・立ち上げの一環としては、今後拡大が見込まれる非製造業向けサービスロボット分野において、パートナーとの提携・協業により市場の創出と開拓を開始いたします。

また、内外の地域特性に合った柔軟な営業戦略の実施により、グループ総合力を最大限に発揮し、業績拡大を実現してまいります。

持続的利益構造改革については、競争力のある製品・地域・市場への注力等による高付加価値化を推進するとともに、製品コストダウンや経費の維持・抑制を継続してまいります。

さらに、業務の標準化を進め、客観性・透明性の高い業務プロセスの構築を目指すとともに、法令順守、リスク管理の徹底を行い、内部統制システムをより強固なものにしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



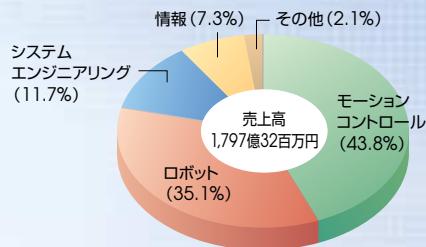
平成 18 年 11 月

取締役社長

利島 康司

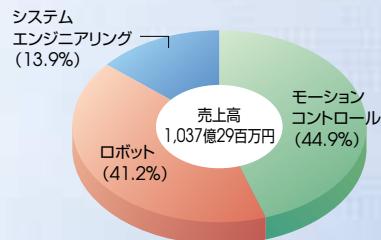
第91期中間期 売上高構成比率

● 連結売上高



営業利益：151億 1百万円
経常利益：151億66百万円
中間純利益：87億22百万円

● 単独売上高



営業利益：47億16百万円
経常利益：83億16百万円
中間純利益：62億 3百万円

部門別の概況

モーション コントロール



主要製品

ACサーボモータ・制御装置 汎用インバータ 工作機械用AC主軸モータ・制御装置 リニアモータ・制御装置	DCサーボモータ・制御装置 高速モータ 小形精密モータ 複合モータ	省エネモータ・インバータ 高周波インバータ プログラマブルコントローラ マシンコントローラ	NCシステム ビジョンシステム その他
--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------------------	---------------------------

当部門においては、ACサーボ・コントローラは、半導体・電子部品市場や海外市場が堅調で、インバータも海外の空調市場等を中心に好調に推移いたしました。これらの市場に対し、営業力の強化による市場開拓の推進を実施する一方、新製品の積極的な拡販および品揃えを強化いたしました。また、高付加価値化に向けた取組みやコストダウン等の採算改善活動にも注力いたしました。

この結果、売上高は前年同期比28.0%増の787億33百万円、営業利益は前年同期比2.2倍の101億79百万円と大きく収益を拡大し、中間期としては過去最高となりました。

ロボット



主要製品

アーク溶接ロボット スポット溶接ロボット 塗装ロボット	ハンドリングロボット 半導体・液晶製造装置用クリーン・真空ロボット 特殊アクチュエータ	クリーン・真空内搬送システム ロボット応用FAシステム 医療・福祉サービスロボット	その他
-----------------------------------	---------------------------------------------------	-------------------------------------------------	-----

当部門においては、自動車市場の需要は、国内市場は前年度下期の設備投資の調整局面による減少から徐々に回復傾向にあり、欧米市場においては投資抑制の動きが見られる中で拡販に努めてまいりました。一方、液晶市場や半導体市場からの需要が回復いたしました。これらの市場全般に対して、用途および市場に最適な製品の拡販による既存市場の拡大を図りました。また、自動車市場では、生産ラインにおいて人と共存し、補助するロボットの導入ニーズにお応えして開発した双腕ロボット、腕ロボットによる新市場創出に努めてまいりました。

この結果、売上高は前年同期比16.1%増の630億88百万円となりましたが、営業利益は自動車市場向けの高付加価値製品の売上減少および欧米市場の競争激化の影響もあり前年同期比8.5%減の40億34百万円となりました。

(注) 従来の「ロボティクスオートメーション」の名称を今年度から「ロボット」に変更しております。

システム エンジニアリング



主要製品

鉄鋼プラント用電機システム	パワーメカトロシステム	高圧開閉装置	中大形誘導電動機
上下水道用電気計装システム	港湾荷役用クレーン制御システム	コントロールセンタ	中形発電機および発電装置
道路設備電源システム	紙・フィルム・液晶等可変速ドライブシステム	システム用制御盤	その他産業用回転機
環境プラント用電機システム	システム情報制御機器	電力用配電機器	その他
エレベータ制御システム	中容量高圧インバータ	永久磁石内蔵形回転機	

当部門においては、得意分野への特化およびコストダウンの強化を図り、利益構造改革を推進いたしました。また、需要面では鉄鋼プラント用電機システムにおける需要増加を取り込むことに注力し、海外においては中国向けのクレーン用電機品が増加いたしました。

この結果、売上高は前年同期比46.4%増の210億97百万円、損益面では、7億57百万円の営業損失となりましたが、前年同期比で11億3百万円改善いたしました。

情報・その他



主要製品

情報	その他
・フロッピーディスクドライブ	・OA機器
・二次元コードマーキング・読取装置	・物流サービス
・情報処理ソフトおよびサービス	・人材派遣
	・その他

情報部門においては、株式会社ワイ・イー・データでは、各種カードリーダーを中心とするマルチメディア機器等が前年度下期に引続き堅調に推移いたしました。また、安川情報システム株式会社では、通信事業者向けシステム構築や、半導体・液晶装置メーカー向けの制御用ソフトの需要が堅調に推移いたしました。

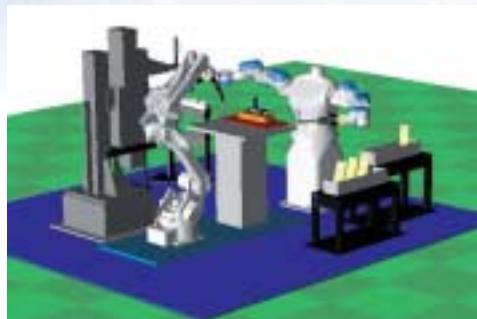
この結果、売上高は前年同期比18.8%増の131億1百万円、営業利益は前年同期比3.3倍の6億44百万円となりました。

その他の部門においては、売上高は前年同期比22.7%減の37億11百万円、営業利益は前年同期比20.9%増の9億94百万円となりました。

新世代ロボットのラインアップ充実

2005年12月に販売を開始した、人と共存するフォルムを持つ新世代ロボットMOTOMAN-DA/IAシリーズにDIAシリーズが仲間入りしました。

MOTOMAN-DIA10は1つの腕に7つの関節があり、10kgの重量物を持つことができます。高速・高自由度な動作を両腕で協調しながら行う新世代双腕ロボットで、胴体部分も回転します。人の腕と同様に自在な姿勢、柔軟な動きが可能であり、工場の生産ラインに新たな可能性を生み出してまいります。



MOTOMAN-DIA10による作業イメージ



MOTOMAN-DA20

- ・1つの腕に6つの関節
- ・1つの腕で20kg、
両腕で40kgの可搬重量



MOTOMAN-IA20



MOTOMAN-DIA10

- ・1つの腕に7つの関節
- ・1つの腕で10kg、
両腕で20kgの可搬重量

安川情報システム株式会社

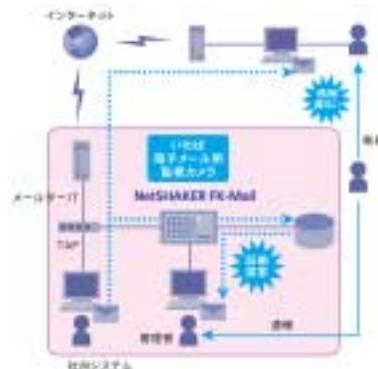
セキュリティ対策用ツール「NetSHAKER FK-Mail」

セキュリティ対策の切り札として「NetSHAKER FK-Mail」を開発・販売しています。この製品が生まれた背景として、不正アクセス、企業情報の漏洩問題、契約文書の電子化に伴い、今後これらの電子データは法規制の下で適正な取扱（一定期間保存、証拠化、等）をすることが重要になっています。また、「個人情報保護法」、「プロバイダ責任制限法」が成立し、訴訟や損害賠償の法的処置も視野に入れたリスクマネジメントの必要性が高まっています。特に、電子メールは現在のビジネスにおける、非常に重要なツールとなっています。そこで、そのセキュリティ対策として使われるのが、FK-Mailのようなフォレンジック（科学捜査）ツールです。

FK-Mailには以下のような特徴があります。

1. 高速・確実に、メールの送受信データ、アクセス元アドレス、アクセス時間など、全てを記録します。
2. メールデータを暗号化して保存します。
3. 保存したメールデータを、高速に検索・再現します。メール本文・添付ファイルの検索にも対応しています。
4. 既存設備に影響を与えることなく簡単に設置可能です。また、既存のネットワークから独立していますので、セキュリティ対策も万全です。

この製品により、より高度で、確実なセキュリティ対策をご提供してまいります。

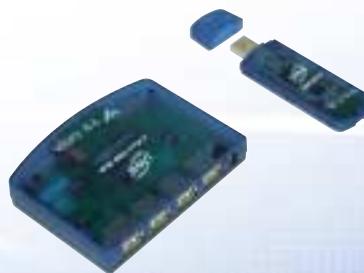


株式会社 ワイ・イー・データ

日本初のUWB「ワイヤレスハブ」を発売

長年培ったUSB技術に加え、研究レベルにあったアンテナ技術を実用化し、Wisair社との共同開発によりUWB（超広帯域無線通信技術）*を用いたワイヤレスハブを発売いたしました。

本製品は付属のUSB DongleをPCのUSBポートに差し込み、ワイヤレスハブに既存のUSB周辺機器（ハードディスク、DVD、マウス、キーボード、プリンタ、デジタルカメラ等）を接続してデータ転送ができるので、PCとハブ間がワイヤレスになります。



*: UWBはギガヘルツ帯の広い周波数帯域を使用し、他システムとの干渉を抑える低送信電力（-41.3dBm以下）、近距離高速（最大480Mbps）通信を実現する方式です。

安川ブルックスオートメーション株式会社を設立

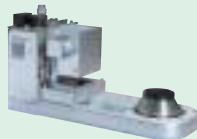
米国のブルックスオートメーション社（以下ブルックス社）と半導体ウエハ搬送ロボット事業における提携に関して合意し、日本における両社半導体関連製品の販売およびサービス事業を拡大することを目的として、2006年6月20日に合弁会社「安川ブルックスオートメーション株式会社」を設立、9月21日を営業開始日として本格稼働を始めました。産業用ロボットの世界的トップ企業でウエハ搬送クリーンロボットに強みを持つ安川電機と、真空中でのウエハ搬送ロボットの世界的メーカーであるブルックス社の双方の優れた技術力、生産力、およびグローバルサービス網をベースとして、半導体システムにおけるお客様のご要求にスピーディーにお応えしてまいります。これにより、顧客満足度と半導体関連製品の売上を拡大し、グローバルNo.1へと発展させてまいります。

安川ブルックスオートメーション（株）の概要

- 本社所在地：横浜市港北区新横浜2-14-2
ダヴィンチ新横浜214
- 設立：2006年6月20日
- 資本金：4億5千万円
- 株主：安川電機 50%、ブルックスオートメーション社 50%
- 売上目標：2008年度200億円（見込み）

取り扱い製品

- ウエハ、リソグラフィック用マスク、ディスク搬送大気・真空ロボット
- 有機EL搬送大気・真空ロボット
- プリアライナ
- ロードポート、SMIF、RFID
- ウエハプロセス用ロードロック、ウエハヒータ&クーリングモジュール
- フロントエンドモジュール、ソーターシステム、大気搬送システム、真空搬送システム、リソグラフィーマスクストッカ
- リニアモータ、サーボモータなど半導体搬送システム関連製品



プリアライナ



大気ロボット



真空ロボット



EFEM



真空搬送システム

「ロボカップジャパンオープン2006北九州」に協賛

世界的に有名な「ロボカップ」の国内大会が5月4日から3日間、北九州市で開催されました。今回の種目は、自立移動型ロボットによる「ロボカップサッカー」、災害救助のシミュレーション競技「ロボカップレスキュー」、初めてロボットに触れる小学生から参加できる競技会「ロボカップジュニア」の3部門に分かれ、小中学生から一般まで多くの方が参加しました。北九州市内に本社を置くロボットメーカーとして、次代を担うロボット技術者・研究者の育成を図るという趣旨に賛同し、当社も協賛いたしました。今後もこのような機会に積極的に取り組み、ロボット産業振興に努めてまいります。



「サイエンス・チャレンジ・スクール」で ロボット技術講座を実施

福岡県では、理科・科学技術に興味のある福岡県下の中学生を対象に「サイエンス・チャレンジ・スクール」が毎年開催されています。その一環として7月31日から3日間、当社開発研究所が「科学講座：メカトロニクスと制御～ロボットはこうして動いている～」を担当しました。次世代を担う子どもたちと触れ合いながら、今後も地域文化活動に協力してまいります。



◆1～2日目

産業用ロボットMOTOMANと次世代ロボットSmartPalを見学していただきました。あわせて、「フィードバック制御講座」と実際の製品を用いた「サーボ駆動の実習」を開催しました。



◆3日目

未来のロボット企画書の作成・発表をしていただき、子どもたちと一緒にロボットについて意見交換をしました。

連結財務諸表（要約）

● 中間連結貸借対照表（平成18年9月20日現在）（単位：百万円）

資産の部		負債の部	
流動資産	178,460	流動負債	125,106
現金及び預金	13,418	支払手形及び買掛金	67,322
受取手形及び売掛金	87,315	短期借入金	24,987
有価証券	38	未払費用	18,278
たな卸資産	58,820	未払法人税等	3,269
繰延税金資産	5,474	その他	11,248
その他	14,239	固定負債	70,386
貸倒引当金	▲ 845	社債	10,000
固定資産	83,455	新株予約権付社債	14,268
有形固定資産	39,152	長期借入金	9,370
建物及び構築物	17,767	退職給付引当金	35,583
機械装置及び運搬具	9,044	その他	1,164
土地	8,002	負債合計	195,492
その他	4,338	純資産の部	
無形固定資産	7,760	株主資本	56,063
投資その他の資産	36,542	資本金	15,908
投資有価証券	21,479	資本剰余金	11,379
長期貸付金	301	利益剰余金	29,107
繰延税金資産	11,908	自己株式	▲ 332
その他	3,282	評価・換算差額等	5,208
貸倒引当金	▲ 429	その他有価証券評価差額金	3,827
		繰延ヘッジ損益	▲ 31
		為替換算調整勘定	1,411
		少数株主持分	5,151
		純資産合計	66,423
資産合計	261,916	負債及び純資産合計	261,916

● 中間連結損益計算書（単位：百万円）

自平成18年3月21日 至平成18年9月20日	
売上高	179,732
売上原価	128,815
販売費及び一般管理費	35,815
営業利益	15,101
営業外収益	1,213
受取利息及び配当金	327
雑収益	886
営業外費用	1,148
支払利息	590
雑損失	557
経常利益	15,166
特別利益	2,998
特別損失	4,245
税金等調整前中間純利益	13,919
法人税、住民税及び事業税	3,253
法人税等調整額	1,325
少数株主利益	617
中間純利益	8,722

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

自平成18年3月21日 至平成18年9月20日

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	13,919
減価償却費	3,359
減損損失	2,030
投資有価証券売却益	▲ 3
関係会社株式売却益	▲ 1,856
売上債権の増減額	▲ 5,530
たな卸資産の増減額	▲ 554
仕入債務の増減額	▲ 197
法人税等の支払額	▲ 4,494
その他	▲ 971
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産等の取得による支出	▲ 4,146
有形固定資産等の売却による収入	1,066
投資有価証券等の取得による支出	▲ 506
投資有価証券等の売却による収入	34
関係会社株式の売却による収入	1,781
その他	442
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額	▲ 3,449
長期借入による収入	3,680
長期借入金の返済による支出	▲ 2,987
配当金の支払額	▲ 1,394
その他	▲ 131
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,282
現金及び現金同等物に係る換算差額	104
現金及び現金同等物の増減額	194
現金及び現金同等物の期首残高	12,102
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	975
現金及び現金同等物の中間期末残高	13,272

単独財務諸表（要約）

● 中間単独貸借対照表（平成18年9月20日現在）（単位：百万円）

資産の部		負債の部	
流動資産	106,205	流動負債	78,955
現金及び預金	4,641	支払手形	5,015
受取手形	7,380	買掛金	42,444
売掛金	48,526	短期借入金	9,786
たな卸資産	25,728	未払費用	10,197
繰延税金資産	2,313	未払法人税等	131
その他	17,643	その他	11,380
貸倒引当金	▲ 29	固定負債	58,892
固定資産	71,013	社債	10,000
有形固定資産	23,960	新株予約権付社債	14,268
無形固定資産	5,791	長期借入金	7,371
投資その他の資産	41,261	退職給付引当金	26,863
繰延税金資産	8,666	役員退職慰労引当金	389
その他	35,917	負債合計	137,847
貸倒引当金	▲ 3,322	純資産の部	
		株主資本	35,668
		資本金	15,908
		資本剰余金	11,379
		資本準備金	11,376
		その他資本剰余金	3
		利益剰余金	8,527
		その他利益剰余金	8,527
		自己株式	▲ 147
		評価・換算差額等	3,703
		その他有価証券評価差額金	3,734
		繰延ヘッジ損益	▲ 30
		純資産合計	39,372
資産合計	177,219	負債及び純資産合計	177,219

● 中間単独損益計算書（単位：百万円）

自平成18年3月21日 至平成18年9月20日	
売上高	103,729
売上原価	81,736
販売費及び一般管理費	17,276
営業利益	4,716
営業外収益	4,105
受取利息及び配当金	3,944
雑収益	161
営業外費用	505
支払利息	241
雑損失	264
経常利益	8,316
特別利益	3,708
特別損失	5,828
税引前中間純利益	6,197
法人税、住民税及び事業税	▲ 135
法人税等調整額	129
中間純利益	6,203

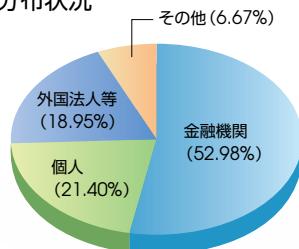
株式の状況 (平成18年9月20日現在)

会社が発行する株式の総数 …… 560,000 千株
 発行済株式総数 …… 233,050 千株
 株主数 …… 22,833 名

主要大株主

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,147 千株	9.50%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,378 千株	6.59%
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	8,071 千株	3.46%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井信託銀行退職給付信託口)	7,970 千株	3.41%
明治安田生命保険相互会社	7,967 千株	3.41%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社福岡銀行退職給付信託口)	6,375 千株	2.73%
エムエルピーエフエスカスティー	5,423 千株	2.32%
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	5,165 千株	2.21%
野村信託銀行株式会社(投信口)	4,515 千株	1.93%
ビービーエチルクス ファイデリティ フォアズ ジャパン ファンド	4,250 千株	1.82%

所有者別株式分布状況



役員 (平成18年9月20日現在)

取締役会長	中山 眞
取締役社長	利島 康司
専務取締役	武井 紘一
常務取締役	鬼頭 正雄
常務取締役	岩田 定廣
常務取締役	堀田 忠和
取締役	佐藤 光昭
取締役	沢 俊裕
取締役	宮原 範男
取締役	清水 喜文
取締役	宇佐見 昇
取締役	後藤 英樹
取締役	津田 純嗣
取締役	中村 公規
取締役	小笠原 浩
取締役	本松 修
監査役(常勤)	山崎 宗重
監査役(常勤)	実松 敏文
監査役	谷 正明
監査役	多喜田 一郎

会社の概要 (平成18年9月20日現在)

商号 株式会社 安川電機
英文社名 YASKAWA Electric Corporation
設立 大正4年7月16日
従業員 8,103名(連結) 2,766名(単独)
事業所 本社 〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号
電話(093)645-8801
東京支社 〒105-6891 東京都港区海岸一丁目16番1号
電話(03)5402-4502
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目25番9号
電話(052)581-2761
大阪支店 〒530-0003 大阪市北区堂島二丁目4番27号
電話(06)6346-4500
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神四丁目1番1号
電話(092)714-5331
工場等 八幡西事業所・八幡東事業所・行橋事業所・
入間事業所・小倉事業所

国内関連会社

JAPAN

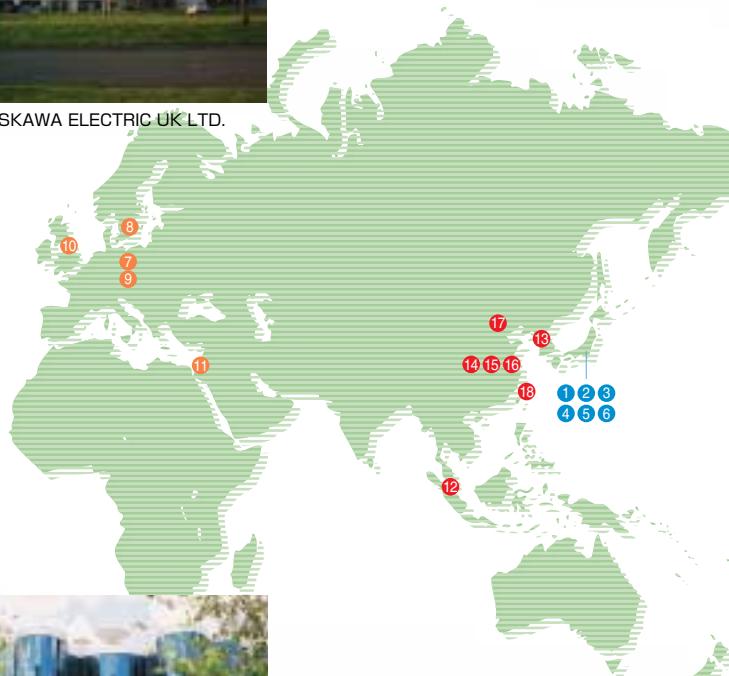
- 1 株式会社 ワイ・イー・データ
電算機周辺・端末機器の製造・販売ならびに
Ontrack (オントラック) データ復旧サービス
- 2 安川情報システム株式会社
情報の処理提供サービス・ソフトウェア開発ならびに
システム機器販売
- 3 安川コントロール株式会社
電気機械器具およびその部品の製造および販売
- 4 安川エンジニアリング株式会社
電気機械設備の保全・整備および技術指導
- 5 株式会社 安川ロジステック
製品の保管・輸送等の物流サービス
- 6 安川モートル株式会社
電動機・発電機および電動機応用製品の設計・製造・販売



YASKAWA ELECTRIC UK LTD.



YASKAWA ELECTRIC (SINGAPORE) PTE. LTD.





YASKAWA ELECTRIC AMERICA, INC.



SHANGHAI YASKAWA DRIVE CO., LTD.

海外関連会社

EUROPE

- ⑦ YASKAWA ELECTRIC EUROPE GmbH (ドイツ)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス
- ⑧ MOTOMAN ROBOTICS EUROPE AB (スウェーデン)
ロボットおよびロボットシステムの製造・販売・サービス
- ⑨ MOTOMAN ROBOTEC GmbH (ドイツ)
ロボットおよびロボットシステムの製造・販売・サービス
- ⑩ YASKAWA ELECTRIC UK LTD. (イギリス)
インバータの製造・販売・サービス
- ⑪ YASKAWA ESHED TECHNOLOGY LTD. (イスラエル)
モーションコントロール製品の開発および製造

ASIA

- ⑫ YASKAWA ELECTRIC (SINGAPORE) PTE. LTD. (シンガポール)
電気機器の輸入・販売・サービス
- ⑬ YASKAWA ELECTRIC KOREA CORPORATION (韓国)
電気機器の輸入・販売・サービス
- ⑭ SHANGHAI YASKAWA-TONGJI M & E CO.,LTD (中国)
電気機器の製造・販売・サービス
- ⑮ YASKAWA ELECTRIC(SHANGHAI) CO., LTD.(中国)
電気機器の輸入・販売・サービス
- ⑯ SHANGHAI YASKAWA DRIVE CO., LTD.(中国)
電気機器の製造・販売
- ⑰ SHOUGANG MOTOMAN ROBOT CO.,LTD.(中国)
ロボットおよびロボットシステムの製造・販売・サービス
- ⑱ YASKAWA ELECTRIC TAIWAN CORPORATION (台湾)
電気機器の輸入・販売・サービス

AMERICA

- ⑲ YASKAWA ELECTRIC AMERICA INC. (アメリカ)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス
- ⑳ MOTOMAN INC. (アメリカ)
ロボットおよびロボットシステムの製造・販売・サービス
- ㉑ YASKAWA ELÉTRICO DO BRASIL COMÉRCIO LTDA. (ブラジル)
電気機器の輸入・製造・販売・サービス

株 主 メ モ

事業年度	毎年3月21日から 翌年3月20日まで	株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	6月	同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(配当金受領 株主確定日)	毎年3月20日(期末配当金) 毎年9月20日(中間配当金)	(郵便物送付先) 電話照会先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(フリーダイヤル)0120-288-324
公告掲載新聞	日本経済新聞	同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	東京・福岡		

ホームページのご案内

下記の当社ホームページにて、決算情報やニュースリリースを随時ご提供いたしております。
<http://www.yaskawa.co.jp/>

株式の事務手続き(届出住所・印鑑・姓名等の変更、株券失効の申請、配当金振込指定、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、名義書換請求等)書類のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより受け付けておりますので、ご利用ください。

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-288-324

インターネット <http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



YASKAWA

株式会社 安川電機



- 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
- 環境にやさしい植物性大豆油を使用しています。